

通信教育課程の大学生の大学生活満足度とライフスタイルの変化について

研究員 野口普子、池口佳子  
松野航大、川島 哲



2020年からCOVID-19の流行によって、ライフスタイルは大きく変容し、大学生活にも大きな影響がありました。通信教育課程の学生においても、自粛生活によって行動範囲は縮小し、運動習慣が減少するなどの変化が見られました。また、大学生活に対しても年齢の若い学生ほど不安感が強いことも明らかになりました(野口, 2020)。この数年、日常生活が刻々と変化する中で、ライフスタイルや大学生活に対する満足度はどのように変化したのでしょうか。2022年度の調査に引き続き、2022年度も通信教育課程に在籍する学生にアンケート調査を実施いたしました。

方法は、任意で無記名のオンラインのアンケートに回答を依頼しました。質問項目は、人口統計学的背景のほか、大学生活満足度については大学生活充実度尺度(SoULS21)(奥田ら, 2010)、大学生活についての意欲は、意欲低下領域尺度(下山, 1995)を用いました。ライフスタイルについてはDIHAL2健康度・生活習慣診断検査(徳永, 2005)を用いました。心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度に

ついては、K6を用いました。また、調査は武蔵野大学通信教育部研究倫理委員会による承認を得て実施しました。

405名より回答を得ました。平均年齢は47.0±11.6歳、女性が82.5%でした。現在解析の途中ではありますが、大学生活についてはSoULS21より、10-20歳代の学生は他の年代の学生と比較して、不安感が高いことが明らかになりました。これは、2年前の調査と同様の結果となりました。また、K6より10-20歳代の学生には、心理的なストレスや精神的な問題を抱えている学生が多いことも明らかになりました。

この数年で、通信教育課程には社会人だけでなく、若い学生の入学者が増えています。特に高校卒業後すぐに通信教育課程で学び始める学生には、イメージしていた大学生活とのギャップが大きいことが想像されます。特に、通信教育課程と通学制課程では、授業方法や学生間の交流に大きな違いがあることから、多様な大学生活や学びへのニーズに応えられるような学修支援のあり方についても検討したいと思います。

また、COVID-19の流行によって、日々の生活様式の変化に適応するために、いまだ心理的なストレスを抱えている可能性もあります。こうした状況においても、大学生活が少しでも充実したものになるように、取り組んでいきたいと思えます。